

令和7年度

「運営に関する計画」  
(最終評価)

大阪市立玉津中学校

令和8年3月

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

本校生徒は、落ち着いた学習環境のもとで、意欲的に授業や部活動、学校行事に取り組んでいる。学習面では、いずれのクラスも集中して授業に臨み、一所懸命に取り組んでおり、大阪府チャレンジテストにおいても、学年により差異はあるが、3学年ともに大阪府平均を上回る結果を残している。学校生活面でも、生徒アンケートの「学校に楽しく通えている」についての肯定的回答が、年々向上しており、昨年度の年度目標の92%を超える結果となった。また、部活動や地域のクラブチームなどにも多くの生徒が積極的に参加している。一方で、不登校生徒の在籍比率については顕著な改善がみられておらず、家庭や関係諸機関と連携した取組が喫緊の課題となっている。働き方改革については、ICT 機器を積極的に活用しながら、業務の効率化を図り、時間外勤務時間の改善を図っていく必要がある。

**中期目標****【安全・安心な教育の推進】**

- ・令和7年度末の校内調査の「学校の規則やルールを守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を令和3年度と同等以上にする。

R7 98.5 (R3 97.6)

- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、令和3年度5%増加させる。

R7 97.7 (R3 79.5)

- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。

R7 78.4

- ・毎年度末の校内調査において、不登校の生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。

R7 9.7 (R6 10.2)

- ・毎年度末の校内調査において、前年度不登校児童生徒の改善の割合を毎年、増加させる。

R7 11.8 (R6 12.9)

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- ・令和7年度の中学校チャレンジテストの平均正答率の7割以下の生徒を、いずれの学年も令和3年度より2ポイント減少させる。

R7 3年生 8.04 2年生 17.1 1年生 21.4 (R3 3年生 15.3 2年生 25.4 1年生 14.3)

- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査の「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える生徒の割合を35%以上にする。

R7 45.5

- ・令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える生徒の割合を、男女それぞれ、令和3年度より5ポイント増加させる

R7 男子 59.0 女子 37.8 (R3 男子 60.3 女子 43.0)

- ・令和7年度の大阪市英語力調査の中学校卒業段階でのC E F R A1 レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を75%以上にする。

R7 89.0

- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を令和3年度より増加させる。

R7 97.7 (R3 92.7)

**【学びを支える教育環境の充実】**

- ・令和7年度の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を76.5%以上にする。

R7 53.0

- ・令和7年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、令和3年度より3ポイント増加させる。

R7 63.9 (R3 84.0)

※R6より回答項目に「わからない」を追加して実施 (R7「わからない」25%)

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

- ・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 90%以上にする。

R7 80.4

- ・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。

R7 9.7 (R6 10.2)

- ・年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

R7 11.8 (R6 12.9)

- ・令和7年度末の校内調査の「学校に楽しく通えていると思う」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を94%以上にする。

R7 87.5

- ・学校で認知したいじめについて、解消した割合を 100%にする。

R7 100

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・年度末の校内調査における「学級の生徒あとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 44%以上にする。

R7 37.4

- ・中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.02 ポイント向上させる。

R6 2年【国語0.12 数学0.26】

R7 3年【国語0.13 数学0.19】 R5 1年【国語-0.05 数学0.07】

- ・大阪市英語力調査における C E F R A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を 72%以上にする。

R7 89.0

- ・年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を 56%以上にする。

R7 62.6

- ・中学生チャレンジテストにおける正答率の対府平均比を1.00以上にする。

R7 1年生 1.01 2年生 1.07 3年生 1.20

- ・令和7年度末の校内調査において「朝食を毎日食べていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を 90%以上にする。

R7 94.0

### 【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日が、年間授業日の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く)  
R7 1月末現在で5.6%
- ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。  
R7 2月現在で68.6%
- ・令和7年度末の校内調査において「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を60%以上にする。  
R7 53.2
- ・令和7年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にしているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、66%以上にする。  
R7 63.9

※R6より回答項目に「わからない」追加して実施 (R7「わからない」25%)

### 3 本年度の自己評価結果の総括

コロナ禍の対応も収束し、また昨年度中に体育館長寿命化工事が終わり様々な教育活動の制限がなくなった中、生徒、教職員ともに、これまで継続されてきた取組に工夫改善を加え実施した結果、学校評価アンケート(生徒用)において「学校行事や学年行事に積極的に協力し、参加できていると思う」の項目に肯定的な回答をした生徒の割合は93%であった。本校生徒が学校生活における取組を振り返り、充実感を感じていることが伺える。

安心・安全な教育の推進については、生徒の規範意識も高い状況を維持できている。その中で起きた様々な生活指導事案において教職員が連携をとり、現状把握、情報共有をし、迅速な指導により早期解決につなげることができた。また、学期ごとにいじめアンケートを実施し、いじめの未然防止に努めた。不登校については、日常的に家庭訪問を実施したり、自学自習の教材を提供するなど、生徒や家庭と学校を結びつけるための取組を実践した。また、教育支援センターとの連携にも取り組んだ。

未来を切り拓く学力・体力の向上については、中学3年生において全国学力・学習状況調査、チャレンジテスト、大阪市英語力調査等においても府の平均を大きく超える成績だった。これも安心・安全な教育の推進における取組により、落ち着いた学習環境を保つことができたことが礎をなっていると考えられる。

学びを支える教育環境の充実については、今年度も各教職員が学習者用端末の活用やICT機器を活用した学習活動に取り組んだが、学習者用端末の活用率については課題が残った。また、全国学力・学習状況調査での生徒アンケートや学校評価アンケート(生徒用)における回答結果から、生徒の家庭での自主学習の定着させることも急務となっていることが分かった。2学期中に学習者用端末が更新されたことを機に、毎日端末を持ち帰ることを原則とした。このことで学習者用端末を用いて自主学習に活用につなげ、生徒の学習意欲向上を図りたい。

教員の働き方改革については、夏季休業、冬季休業それぞれにおいて学校閉庁日を設定し、年次有給休暇の取得の環境整備をおこなった。今後もテレワークや時差出勤の促進を図ることも合わせ、教職員の働き方に対する意識改革に取り組んでいく。

## 大阪市立玉津中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。 R7 80.4</li> <li>年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 R7 9.7 (R6 10.2)</li> <li>年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 R7 2名 11.8 (R6 4名 12.9)</li> <li>令和7年度末の校内調査の「学校に楽しく通えていると思う」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を94%以上にする。 R7 87.5</li> <li>学校で認知したいじめについて、解消した割合を100%にする。 R7 100</li> </ul>	<b>B</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>明るく落ち着いた教育環境の中で、生き生きと学習に取り組み、心身ともに健全に成長できるよう、規範意識を高めるとともに、生徒の安全・安心と教育を受ける権利の保障に努める。いじめや暴力行為等の問題行動を生まないためにも、子どもの規範意識を高め、すべての生徒が自他の尊厳を認め合い、好ましい人間関係を確立する。不登校や虐待に関する生徒の状況を適切に把握し、丁寧に対応する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度末の校内調査の「学校の規則やルールを守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を95%以上にする。 R7 98.5</li> <li>学期に1度、学習者用端末を活用したいじめアンケートを実施し、いじめの早期発見・早期解決を図る。</li> <li>12月に行った学校評価アンケート(生徒用)にて「学校の規則やルールを守っていますか」に対し肯定的に回答した生徒の割合は98.5%だった。</li> <li>各学期に1度、学習者用端末を活用し、「いじめアンケート」を実施し、いじめの早期発見、早期解決に取り組んだ。また、同じく学習者用端末のスクールライフノートの相談申告機能の活用を周知し、生徒の悩みや、心の変化を把握する体制を整えた。</li> </ul>	<b>B</b>
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>倫理や規範意識、社会性をはぐくむ教育を進めるため、道徳教育を推進する。また、生徒の社会的・職業的自立に向け、企業や団体の協力による職業講話や職場見学、職場体験学習などによりキャリア教育を進める。「共に学び、共に育ち、共に生きる教育」を一層推進するために、生徒がさまざまな人権課題に対する正しい理解と認識を深め、自他の生命と尊厳を互いに尊重し合う態度をはぐくむ。</p>	<b>A</b>

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度末の校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を80%以上にする。 R7 82.3</li> <li>・人権教育やキャリア教育に関する取組を年に3回以上実施する。</li> <li>・令和7年度末の校内調査の「社会の役に立つ人になりたいと思う。」の項目について、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を前年度(64.3%)より増加させる。 R7 67.2</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育としての職場体験学習は11月12、13日に実施した。</li> <li>・1年生については非行防止教室、2・3年生については性教育を実施した。また、外部から講師を招いて人権課題に関する取組として人権講話、福祉講話および福祉体験を実施した。</li> <li>・12月に実施した学校評価アンケート(生徒用)にて「社会の役に立つ人になりたいと思う」の項目に対し最も肯定的な「思う」と回答した生徒の割合は67.2%で前年度を上回った。</li> </ul>	
<p>取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>防災・減災教育の充実に向け諸機関や地域と連携を図るとともに、安全(防犯)を守るためにも主体的に行動できる力の育成に努める。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区役所や消防署など地域と連携し、3年間を見通した防災訓練を実施する。</li> <li>・令和7年度末の校内調査の「災害に備えるために学校で行う防災・減災教育などの安全教育や講習会、避難訓練などの取り組みは役立つし必要であると思う」の項目について肯定的に答える生徒の割合を98%以上にする。R7 97.7</li> </ul>	B
<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月に避難訓練、11月に防災訓練を実施した。</li> <li>・11月に区役所や消防署、地域の方々と連携して防災訓練を実施した。</li> <li>・11月に生徒会の役員が区役所が主催する災害時避難所運営訓練に参加した。</li> <li>・12月に実施した学校評価アンケート(生徒用)にて「災害に備えるために学校で行う防災・減災教育などの安全教育や講習会、避難訓練などの取り組みは役立つし必要であると思う」の項目について肯定的に答えた生徒の割合は97.7%であった。</li> </ul>	
<p>中期目標及び年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>概ね計画の通りに実施できた。1・2年生での校外学習、3年生の修学旅行などを通じて、ともに支え合う集団づくりに取り組んだ。また文化祭、体育大会などの行事を通じて、集団の育成に取り組んだ。教職員が情報共有を密にし、迅速かつ適切な生活指導を実施することに努めており、それにより落ち着いた学校生活環境を整え、行事等においても生徒が意欲的に取り組むことができていると考えられる。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>各学期ごとにいじめアンケートや教育相談、日ごろの教職員から生徒への声掛けを通して、いじめの早期発見、解決、未然防止に努めていく。</p> <p>職場体験や人権学習、道徳の授業を通じて自己肯定感や自己有用感を育てていく。また区役所や地域と連携した防災訓練を通じて地域の一員として災害時にとるべき避難行動や避難所運営についての意識を高めていく。</p>	

## 大阪市立玉津中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を44%以上にする。 R7 39.4</li> <li>中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。 R6 2年【国語0.12 数学0.26】 R7 3年【国語0.13 数学0.19】 R5 1年【国語-0.05 数学0.07】</li> <li>大阪市英語力調査におけるCEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を72%以上にする。 R7 89.0</li> <li>年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を56%以上にする。 R7 62.6</li> <li>中学生チャレンジテストにおける正答率の対府平均比を1.00以上にする。 R7 3年1.20 2年1.07 1年1.01</li> <li>令和7年度末の校内調査において「朝食を毎日食べていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を90%以上にする。 R7 94.0</li> </ul>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>生徒一人ひとりが学ぶことに興味・関心を持ち、見通しを持って粘り強く取り組むなど、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす。また、「生きて働く知識・技能の習得、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力」をはぐくむ学習を推進する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度末の校内調査の「各教科の授業の内容はよく分かりますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える生徒の割合を前年度(89.0%)より増加させる。 R7 88.3</li> <li>12月に実施した学校評価アンケート(生徒用)にて「各教科の授業の内容はよく分かりますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答えた生徒の割合は88.3%で前年度とほぼ同じであった。</li> <li>各学年、各教科の教員が授業の工夫改善を図りことをめざし、9月と11月に校内研究授業週間を設けて相互の意見交流を行った。</li> <li>大阪市教育委員会、学力向上支援チーム事業のスクールアドバイザーに月に2回程度来校してもらい、指導助言を受けて、若手教員を中心とした授業力向上つなげる取組を16回実施した。</li> </ul>	B

<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 世界的な競争と協働が進む国際社会において、生徒に力強く生き抜く力を身につけさせるため、生徒の可能性を広げるツールとなる英語のコミュニケーションスキルを向上させる。</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語科の授業において、T・Tや習熟度別少人数授業等の個に応じた指導を行うとともに、C-NETの活用を図り、コミュニケーションスキルを養う。</li> <li>・英語科の授業において、習熟度別少人数授業等の個に応じた指導を行った。</li> <li>・今年度もC-NETを活用した授業を実施し、英語の活用力の向上を図った。</li> <li>・10月に大阪市英語力調査を実施した。調査の結果、全ての項目において大阪市の平均を上回る成績だった。</li> </ul>	
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】 生徒が心身とも健康で活力のある生活を送るために、主体的に運動する習慣を身につけ基礎的な体力を養う。講話や実技指導を通して生徒の夢や目標をはぐくみ、スポーツへの関心を高め、体力の向上を図る。健全な生活を送るためには健全な食生活は欠かせないものなので、生徒には食に関する正しい知識と食習慣を身につけさせるとともに、健康的な生活習慣を形成し、健康を管理する能力を身につけさせる。</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点において、対大阪市比を1.00以上にする。<span style="float: right;">R7 男子 1.01 女子 1.09</span></li> <li>・区役所と連携し、食育教育を実施する。</li> <li>・毎月、食育つうしんを発行し、健康と食に関する意識を向上させる。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健体育の授業や部活動を通じて、体を動かすことの大切さを伝えた。</li> <li>・指標となる全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果において体力合計点の対大阪市比は男子で1.01、女子で1.09であった。</li> <li>・1学期に区役所と連携して「朝食の大切」についての食育学習を実施した。</li> <li>・毎月、食育つうしんを発行し、食に関する啓発を行った。</li> </ul>	
<p>中期目標及び年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>概ね計画通りに実施できた。3年生については全国学力・学習状況調査、大阪市英語力調査においても一定の成果をみることができた。またチャレンジテストについてはどの教科も対府平均を上回ることができた。</p> <p>校内においても生徒同士がグループで意見を交換し合う対話活動や実験、習熟度別少人数授業やティームティーチングなどを各教科が取り入れ、生徒の実情に応じた授業の工夫を实践できた。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>学力の向上だけではなく、運動に対する意識や意欲の向上、食育を通じた健康な体づくりの大切さの啓発を継続していく。</p>	

## 大阪市立玉津中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日が、年間授業日の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く) R7 1月末現在で5.6%</li> <li>年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。R7 68.6</li> <li>令和7年度末の校内調査において「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を60%以上にする。R7 53.2</li> <li>令和7年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にしているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を66%以上にする。R7 63.9</li> </ul> <p>※R6より回答項目に「わからない」追加して実施 (R7「わからない」25%)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>不登校生徒など個別に支援が必要な生徒の学習の保障に取り組む。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>必要に応じて、5教科の授業をオンラインで配信等をおこなう。</li> <li>不登校の生徒に希望に応じて学習者用端末を用いた学習教材アプリの提供を促し、学習保障につなげた。</li> <li>学習者用端末の更新を機に毎日持ち帰りを原則とした。</li> </ul>	B
<p>取組内容②【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>ICT機器の活用に関する研修を実施し、教職員の活用能力を高める。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器を活用した研究授業を全教員が年に1回以上実施する。</li> <li>全教員が学習者用端末やプロジェクター、大型モニターなどのICT機器を活用し、わかりやすい授業の実践に努めた。</li> <li>ICT担当教員を中心に、新たな電子教材などの授業支援ツールが整備された場合に、教職員に使用方法などを周知して活用につなげた。</li> </ul>	C
<p>取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】</p> <p>学校図書館司書の配置に伴い、学校図書館の開館や館内環境整備を行う。調べ学習や読書活動など学校図書館の活用を進める。</p> <p>「学校元気アップ地域本部」事業を継続し、放課後や定期テスト前の自主学習支援など教育活動のサポートの充実を図るとともに、家庭での学習活動の支援を行う。</p>	B

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度末の校内調査の「学校の図書室を週に1回以上利用している」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を前年度(13.3%)より増加させる。 R7 10.2</li> <li>・令和7年度末の校内調査の「宿題以外に、予習・復習や問題集を解くなど、自分で計画を立て、家で勉強している」の項目について肯定的に答える生徒の割合を54%以上にする。 R7 48.3</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館の活性化を図るため、図書館担当教員が学校図書館司書と連携し、蔵書の整理や図書館内の環境整備を行った。</li> <li>・12月に実施した学校評価アンケート(生徒用)において「学校の図書室を週に1回以上利用している」の項目に肯定的な回答をした生徒の割合は10.2%であった。</li> <li>・学校元気アップ事業を活用したテスト前の自主学習会にはこれまでに109名の生徒が参加した。(1学期中間14名、1学期期末19名、2学期中間27名、2学期期末33名、3学期学年末16名)</li> <li>・12月に実施した学校評価アンケート(生徒用)において「宿題以外に、予習・復習や問題集を解くなど、自分で計画を立て、家で勉強している」の項目について肯定的に答えた生徒の割合は48.3%であった</li> </ul>	
<p>取組内容④【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <p>ホームページや学年・学級通信等を通して、学校の様子を伝えるとともに、保護者や地域住民に開かれた学校園の運営をめざす。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートの「中学校の行事や教育活動、子どもの様子はホームページや通信(学年・学級だより)等や懇談会でよく知ることができる」の項目に対して、肯定的に回答する割合を前年度レベル(92.9%)で維持する。 R7 83.3 ※「わからない」が3%</li> <li>・地域との連携をはかる機会を1回以上設ける。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事や学年行事、または部活動を含めた生徒たちの様子を学校のホームページに掲載し、情報の発信に努めた。また、各学年や学級での通信は発行し、学校での様子を保護者に伝えることができた。</li> <li>・地域の祭礼巡視や敬老会(吹奏楽部)に積極的に参加した。</li> <li>・12月に実施した学校評価アンケート(保護者用)にて「中学校の行事や教育活動、子どもの様子はホームページや通信(学年・学級だより)等や懇談会でよく知ることができる」の項目に対し肯定的に答えた保護者の割合は83.3%であった</li> </ul>	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>大阪市部活動指針(プレイヤーズファースト)を遵守するとともに、学校閉庁日を夏季休業中は3日以上、冬季休業中は1日以上設定する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を30%以上にする。 R7 31.43</li> <li>・夏季休業中には4日間の学校閉庁日を設定した。また、冬季休業中にも2日間の学校閉庁日を設定した。</li> <li>・指標に関して1月末現在、基準1を満たしている教員の割合は31.43%である。</li> </ul>	B

中期目標及び年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

様々な教育活動や地域と連携した取組を積極的に行っているため、休日出勤等の機会もあるが、学校閉庁日の設定や時差出勤の制度なども活用し、可能な限り負担の軽減に努めている。

ICT 教材の活用についてはこれまで同様に一定の成果は見られるが、学習者用端末の様状況についてはまだ十分な活用には至っていないことが課題である。

次年度への改善点

来年度においても、それぞれの活動内容を整理して、教職員の負担軽減を図っていく。学習者用端末を毎日持ち帰りを原則としたことで、家庭での自学自習の促進を図り、ICT の活用とともに生徒の学力の定着に結びつける。